社会医療法人
大雄会

地域医療連携広報誌

つながる医療

特集インタビュー

小林 健介 医師
こばやし　けんすけ

総合大雄会病院
心臓外科 診療部長

【 主な資格 】
- 日本外科学会専門医
- 3学会構成心臓血管外科専門医
  認定機構心臓血管外科専門医
- 日本脈管学会認定脈管専門医
- 日本循環器学会循環器専門医
- 医学博士

心臓や血管の手術に関して疑問や不安があれば
なんでも、何回でもお問い合わせください。

心臓外科 診療部長　**小林 健介**

小林先生は、どんな治療に携わっていますか？

標榜科名は「心臓外科」ですが、私自身は「心臓血管外科専門医」なので扱っているのは心臓だけではありません。主に成人の心臓病である狭心症や心筋梗塞、心臓弁膜症の他に、胸部・腹部の大動脈瘤や急性大動脈解離などの大動脈疾患、手足の末梢の動脈硬化による病気や下肢静脈瘤なども治療しています。大動脈瘤の破裂など一刻の猶予もない緊急手術症例にも対応しています。
実は心臓や血管には「癌がほとんどできない」という特徴があり、消化器外科などと違って腫瘍切除術がほぼありません。心臓や血管の手術は「切除」ではなく「機能再建・修復・突然死予防」のための手術が多いのです。このため病気で傷んだ心臓の弁や血管を切除する代わりに「人工弁」や「人工血管」などで取り換えることがあります。

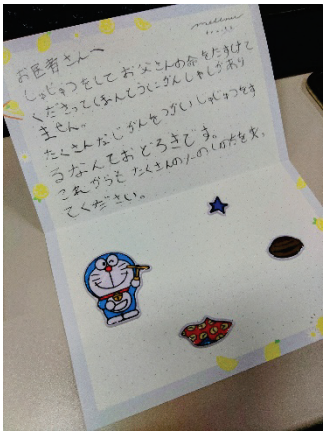
心臓外科のアピールポイントを教えてください。

大動脈瘤の手術は開胸や開腹で直視下に行う「人工血管置換術」が多く行われてきましたが、近年は体を大きく切開せずに行う「ステントグラフト内挿術」が増えています。足の付け根を小切開したり針を刺したりするだけで手術ができるので、体の負担が大幅に軽くなります。また女性に多い下肢静脈瘤の手術でも、カテーテルで血管の内側から治療する「血管内焼灼術」を行って、体への負担軽減に寄与しています。
心臓の手術は話を聞くだけでも怖いと感じられる方が多いと思います。外来ではできるだけ時間を取って、ゆっくりとわかりやすい言葉でお話をするようにしています。患者さんが判断に迷う場合には、病状にもよりますが、気持ちに寄り添いながら無理に結論を求めずに、日を改めて何度でもご説明するように心がけています。

今までで印象に残っている症例を教えてください。

ポケベルやPHSしかない大学病院の若手時代に、羽田から札幌まで小型ジェット機で人工呼吸器の重症心不全患者を搬送しました。当時はまったく前例やノウハウがなく、限られた期間で双方の大学病院間や航空会社、搬送用の医療機器メーカー、院内救急車部門、

ご家族などとの一切合切の連絡や調整を電話でする必要があり、上司から一言「頼むわ」と言われたのですが、すべてを自力で判断して迅速かつ完璧にマネージしなければ目の前の患者さんが亡くなってしまうぞという「原体験」をしました。最近では自分よりも若い患者さんの冠動脈バイパス手術をしたのですが、小さなお子さんがひらがなの鉛筆書きでお礼の手紙を書いてくれました。とても嬉しかったです。でも二十数年の間には反省すべき症例も多々あって夢にも出てきますね。

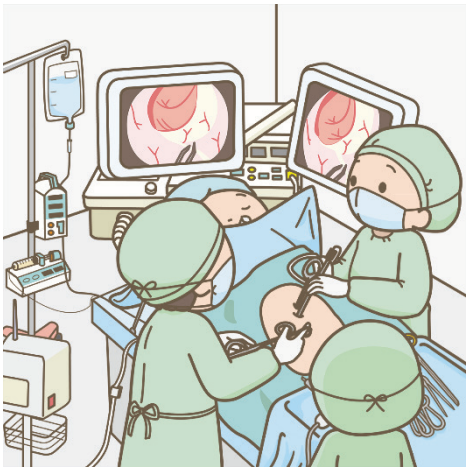


患者さまへのワンポイントアドバイスをお願いいたします。

心臓外科が扱う病気の中には「前触れなく」、「突然」、「命にかかわる」といったものがたくさんあります。これらの病気はなってしまってから治療や手術を考えるのでは間に合わないものも多いのです。特に65歳以上で高血圧症や糖尿病、高コレステロール血症などがある方は、たとえ普段なんともなくても検診や人間ドックなどで全身検索をすることが大切です。大動脈瘤は破裂したらほぼ7～8割の方が亡くなってしまいますが、破裂するまで無症状で自分では気が付きません。でもCTや超音波検査で見つけられます。また喫煙は心臓病や動脈瘤の発症リスクを確実に高めるので、禁煙を強くお勧めします。

今後の目標や展望を教えてください。

心房細動という不整脈があるのですが、これによって血流に淀みができると左心耳という部分に血栓（血のり）がこびりついてしまいます。そのかけらがはがれて血流にのって頭に流れていくと、脳の血管に詰まって脳梗塞になってしまいます。これを「心原性脳梗塞」といって、元ジャイアンツの長嶋さんを思い出したらイメージできるかと思います。この左心耳を手術で切除したり縫いつぶしたりすると血栓形成や脳梗塞を予防できるのですが、胸を大きく切開せずに胸腔鏡という内視鏡の一種で行う方法があるので、将来的に導入できればと考えています。



先生の事をもっと知りたい！

●医師を志した理由を教えてください。

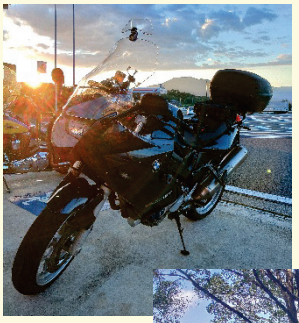
父方も母方も幕末の頃から医師（藩医・御殿医）で、父方は明治時代から外科医でした。自分は多分４～5代目ぐらいになります。親戚に医療関係者が多くて子供のころは「仕事に行く」とは病院に行くことだと思っていました。父から医師になれと言われたことはないのですが、なんとなく医者になるのかなと思っていました。ただ元々が文系の人間なので、実際に医学部に入るまでに4年の浪人期間を要しましたが…。結果オーライですね。自分がこの年齢になると身内で手前味噌ながらも父や祖父、曽祖父の存在の大さが身に沁みます。

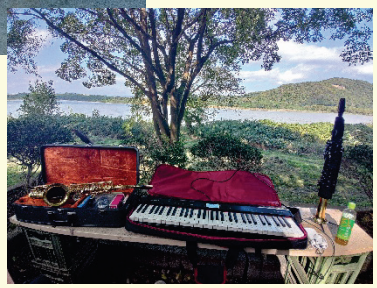
●診察の際や医師として大切にしていることを教えてください。

外来では手術や治療の話をするよりもまず患者さんとの「ラポール」形成に努めます。ラポールとはフランス語で「橋をかける」という意味ですが、精神医学用語では患者さんとの「信頼を築く」という意味になります。心臓手術は治療手段であると同時に患者さんに危害を及ぼし命の危険を生じさせ得るものでもあります。ラポール形成をおろそかにして手術に突き進むと、患者と医療者の双方が不幸になることがあります。命を預けて手術に臨む患者さんの決意を尊重し、その意思決定の過程に丁寧にかかわることが大事です。目を見て、笑顔で、わかりやすく、ゆっくり余裕をもって対応するようにします。

●休みの日の過ごし方を教えてください。

時間があればドライブやバイクで温泉に行ったりします。最近は学生時代のJAZZ研以来のSAXや電子ピアノを扶桑町の木曽川緑地で練習していますが、散歩中のおじいちゃんおばあちゃんに褒めてもらうことがあって嬉しいです。一宮駅の駅ピアノも弾いてみたいですね。妻にランチに連れて行ってもらうこともあるしラーメンの食べ歩きもしますよ。





詳しくは、地域医療連携室までお問い合わせください

社会医療法人大雄会
地域医療連携室
<TEL> 0586-26-2366 <FAX> 0586-24-9999
受付時間 ▶ 月～金曜 ／ 8:30～19:00、土曜 ／ 8:30～12:30 ※祝日･年末年始は除く。